

教育実習は教職へのmilestone

英語キャリア学部 教授 新坊 昌弘

milestoneという言葉があります。ビジネスでは、「節目」「中期目標」等の意味で使われることが多いようですが、元々は、紀元前のローマ帝国時代、主な街道に1ローマ・マイル（1000歩）毎に置かれた里程標（距離標識）の石のことです。

教育実習がいよいよ始まりました。教育実習は、まさに教職をめざす者にとっての「節目」であり、大学での学びの集大成ともなる「中期目標」でもあります。そして、教師に辿り着くために必ず通らなければならない里程標であるのです。

教員採用試験を7月に控えたこの時期に教育実習があることには、大きな負担を感じている人も少なからずいることでしょう。しかし、この時期に教育実習を経験することは、大きなチャンスでもあるのです。

この3週間は、教員採用試験のことは全て忘れて、教育実習に没頭して欲しいと思っています。素晴らしい指導案を書き上げること、指導案通りの授業をすることだけを目標とする独り善がりの教育実習に終わらせるのではなく、あの生徒が少しでも英語に興味を持ってくれるように、この生徒が少しでも英語を好きになってくれるように、精一杯授業づくりに励んできて下さい。その生徒が心を開いてくれるように、一生懸命に関わってきて下さい。上手いかななくても落ち込む必要はありません。授業をつくること、生徒から信頼を得ることは、そんなに簡単なことではないのです。学校の先生方も日々授業づくりに悩み、様々な課題の解決のため生徒に向き合い苦闘されているのです。その難しさを身をもって感じてきて欲しいと思っています。

そんな中で、生徒の些細な変化にさえも喜びを感じている自分自身に気付いてください。

そして、その一つひとつをしっかりと心のmilestoneに刻んでくるのです。

その里程標は、必ずやみなさんを教職へと導いてくれるはずです。

みなさんの健闘を祈っています。

教員採用試験対策セミナー(春季合宿)

5月20日(土)、21日(日)と学研都市キャンパスセミナーハウスで教員採用試験対策セミナー(春季合宿)が行われました。教員採用試験を間近に控えた4年生や卒業生が56名が参加し、教職教育センター運営委員の先生方、今年度卒業した10名のチューターから熱気のこもった対策指導が行われ、今年度も充実した内容となりました。

参加した学生からの感想を紹介します。

細田 敬矢 さん 外国語学部 英米語学科 4年生

教員採用試験対策セミナーに参加して

私にとって教員採用試験対策セミナーとは、共に教員を目指す仲間を作る機会であり、それと同時に自身を見つめ直し、教員に本当になりたいのかを知る大切な機会です。初めてこの合宿に参加させていただいたのは、3年次の春でした。当時は、教員という夢が曖昧で、私は何をすべきなのか分からず途方に暮れていました。そんな時、友人に合宿へ誘われ、緊張と不安を抱えながら参加しました。しかし現役教員の方の話や教員を強く志望する先輩や仲間との交流を通して、今の自分に何が足りていないか、それを補うにはどうすれば良いかを考える有意義な機会となりました。さらに、教員を志す仲間との繋がりは、私が夢を追いかける力となり、やる気を引き出すきっかけとなりました。そうして、教員に絶対になるという目標を立てた私は、ボランティアを始め、留学中には、教員に求められる能力に関する授業を履修するなど、とても充実した期間を過ごしました。合宿を経て、将来の見通しを立てられたからこそ、頑張ることが可能となり、やるべきこと・やりたいことが明確になったのです。そしてこれを継続できたのも仲間のおかげであり、本当に感謝しています。そして今回、1年の留学から合宿の前日に帰国し、再び合宿に参加させていただきました。それぐらい私にとって、教員採用試験対策セミナーから得られるものは多く貴重だと考えていたのです。教員になりたいがどうして良いか分からない、意思がまだ固まっていないなどの悩みを持っている方には、ぜひ合宿に参加することをお勧めします。

眞田 雛子 さん 英語キャリア学部 英語キャリア学科 4年生

昨年度の秋に行った小学校の教育実習の後から、徐々に始めた教員採用試験のための勉強。3回生の間は先輩方に勉強法を教わりながら、ゼミのみんなと集まって試行錯誤の中、進めていました。4回生になって約2か月。夜スベも始まり、周りの雰囲気も引き締まってきて、「いよいよか。」と感じる中、まだまだいろんなものが漠然としていて不安もたくさんありました。今でも不安はたくさんありますが、この合宿に参加して、それが少し和らぎ、気持ちを新たに引き締めることができました。また、自分の中で、「教師に早くなりたい！」という気持ちも高まりました。本当に参加してよかったと思っています。

合宿では、今年から現場で先生をしている先輩方との交流会や、教職教養、小学校全科の模擬試験、模擬面接など、教員採用試験に直結するものばかりで、とっても充実していました。先輩方からのお話は、私が不安とするところ、悩んでいるところに、直接的に答えをくれるような内容でした。「自分のペースで、一步一步進んでいく。」「悔いのないように。」そんな先輩方の経験からの言葉は、私を奮い立たせてくれました。何よりも、ほとんどの先輩方が強調していた「仲間と共に頑張ること。」の本当の大切さを実感しました。最近は、夜スベ後、小コースの友達と一緒に遅くまで勉強しています。仲間がいるからしんどくても頑張れる。そんな仲間のありがたさを実感することができました。

これから試験本番まで、どんな壁が待っているのかわかりません。ですが、合宿で先輩方と「全員で合格する」と約束したこと、自分一人ではなく、たくさんの仲間や先生がそばに居て支えてくれていることを心に留めて、合格に向かって頑張ります。

教員になることを目指している学生さんは、必ず参加すべきです！間違いなく自分のためになるものが合宿にはあります。私も、来年、卒業生として、現場の先生としてこの合宿に参加し、今回自分が学んだことを後輩に伝えられるようにしたいと思っています。

最後に、お忙しい中、私たちのサポートに全力を注いでくださっている先生方に厚くお礼申し上げます。

三井 奈美 さん 英語国際学部 英語国際学科 4年生

教員採用試験対策セミナーを終えて

はじめまして。英語国際学部4年の三井奈美と申します。私は今回初めてこの合宿に参加しました。1年前にも同じ機会がありましたが、当時私は「まだいいだろう」と妥協していました。合宿を終えた今、去年も参加していればと言う思いでいっぱいになりました。この合宿に参加する前とした後では教育実習や教員採用試験に向けて、そして教師になりたいと

思う気持ちに大きな変化が起きました。今回は合宿を終えた感想として何が私を変えたのか3つお話ししたいと思います。

まず、先輩方との交流です。現在教師一年目として現役で教員採用試験に合格された先輩方の一年前の姿や、取り組みを聞くことで、今自分に何が足りないのか、そして実習や教採までに何をどうしていけばいいのか、具体的に考えることができました。特に、毎日必ず何かしらの知識を自分のものにしてから一日を終えるということが、今の私に重要だと感じました。合宿に参加する前の私は、参考書を開かない日がありました。それではだめだと思いつつも、勉強しない日を作ってしまうことがありました。しかし、先輩方の話を聞いて、現役合格するためには、勉強しない日を作らないことが何よりも大切だと思いました。もちろん息抜きのための OFF の時間も必要ですが、寝る前には必ず参考書を復習するなど毎日の積み重ねが必要だと思いました。

次に、お互いのキャンパスで教採に向けてどのような活動や対策をしているのかを知ることができ、コミュニティが広がることで横のつながりを持つことができました。参加前は、人見知りの私がかたく交流できるのか不安でしたが、交流の中でお互い支えあい、励ましあいながら、たくさんを知ることができました。短い時間ではありましたが、少しでも多くの学生とふれあい、みんな同じ状況で同じような悩みを抱え、不安と向き合いながらも、教師になりたいという熱い気持ちを持っていることに変わりはないことを知りました。これからは切磋琢磨し、支えあいながら学び続けたいと思います。

最後に、一年後の自分を想像できるようになったことです。参加前は、目の前のことに必死で実習や教採の準備をしなければという気持ちでいっぱいでした。しかし、今では、一年後、卒業した先輩方のように、教師という夢をかなえ、私からアドバイスを発信し得るような存在になりたい、勉強をしたいという意欲に変わりました。憧れの先輩を目ざすために、自分に必要なこと、どうすれば追いつけるのかを考え、行動に移すことで一年後、教育者として人の前に立ってあこがれの存在になれるよう、努力したいと思いました。末筆ではありますが、今回の合宿を作り上げてくださった先生方、先輩方に感謝をするとともに、教員になることで精いっぱい恩返しをしていきたいと思っています。努力は必ず報われる、継続は力なりという言葉信じ、教師となって生徒の夢をかなえられるような存在になりたいと思います。

今津 直樹 さん 英語国際学部 英語国際学科 4年生

今回の合宿に参加した経験は自分の人生の中でも最大の勉強になりました。私は今回の合宿を通して、3つのことを学びました。

1つ目は一次試験での筆記試験に対する心構えです。私は6月1日から3週間、教育実習にいきます。教育実習が終わると7月上旬の教員採用試験まで時間がほとんどありません。

そうした限られた時間の中で効率的に学習するためには、タイムマネジメントを意識することが重要です。「自分の決めた学習範囲は必ずやる！」という強い信念を持って取り組む大切さを学びました。また昨年、教員採用試験に合格された先輩方から、今の時期にしていた勉強法や、学習教材などを教わりました。先輩方が実践されていた方法を導入しながら教員採用試験までに、今できる最大限の努力をしていきます。

2つ目は向上心を持って学び続ける姿勢です。今年から教師として活躍されているどの先輩方の話を聞いても、教員採用試験は「人物重視」であるとおっしゃっていました。教員採用試験で人間性を見る場面は面接試験です。面接練習をする際はより多くの人に自分の話し方、姿勢などを客観的に見てもらいながら、謙虚にアドバイスを受けることが必要になります。「自分が教師になったら、こんな教育がしたい！」「英語を通して、子どもたちの人間性をより彩あるものにしたい！」そうした自分の教育観や指導観を面接で表現するために、学び続けたいと思います。常に昨日よりも今日、1時間前より今の自分の方が輝けるように、日々向上していきます。

3つ目は仲間の大切さです。教師は決して1人でなることはできないと自負しています。現在は学研都市キャンパスの教職サークル「サイスペ」に参加し、自分を高める日々を送っています。また、教職仲間のコミュニティを作り、本番を意識した面接練習もしています。こうした仲間で時間と場所を共有する中で、自分の視野を広げることができています。今、自分が教師を志し続けているのも、お世話になっている西村先生や卒業された先輩方、そして大好きな仲間がいるからです。そうした周囲の支えなくして今の自分はありません。周りの人々への感謝を決して忘れずに、自分が教師になることで、恩返しをしたいと思っています。「サイスペ」の仲間とともに教師を目指す今を大切に過ごし、切磋琢磨していきます。

この合宿で培ったことを自分の中に浸透させながら、中宮キャンパスの教職仲間、学研都市キャンパスの教職仲間とともに教員採用試験を乗り越えていきます。

夜スペ第一ラウンド終了

4月より始まりました教員採用試験一次対策講座（夜スペ）の第一ラウンドが5月18日（木）で終了しました。4年生は教育実習でドキドキしていることでしょう。きっと、苦労した分だけ多くの経験ができ、今後の教員生活の礎が見つかると思います。これから実習へ臨む皆さんは最後までしっかりと準備をすすめましょう！！

夜スぺ第一ラウンドを終了しての感想

芦本 紗希 さん 外国語学部 英米語学科 4年生

「あなたは英語の先生になっっていますか？」これは、成人式の日、14歳の私から20歳の私宛に送られてきた手紙の一文です。

去年の今頃の私は3回生で、4回生の先輩方に交じり、「夜スぺ」や「合宿」に参加していました。当時の私には、先輩方がとても偉大な存在に映り、自分とは随分かけ離れた存在のように思い、一年後の自分はこのような先輩方のようになれているのか、不安で一杯でした。そして迎えた4回生の「夜スぺ」と「合宿」。去年の先輩方のように自分が成れているとは言えないかもしれませんが、去年よりは確実に成長したと実感しました。それはこの一年間、ゼミのみんなと一緒に放課後新聞記事を読んだり、教職教養の勉強をしたり、ボランティア活動をしたり、共に同じ夢に向かって精いっぱい励んできたからだと思います。現場にたくさん出ている人、留学経験がある人、社会人経験がある人、ボランティア活動をたくさんしている人、就活と両立して努力している人、英語力が高い人、と、個性豊かなゼミのメンバー。そんな彼らを見ていると、教師と一緒にになりたいという想いが奮い立たされまます。私がここまで教職課程を履修し、教師も目指してこられたのは、紛れもなく、大好きなゼミの仲間といつも応援してくださる先生方のおかげであると感じています。これから教育実習が始まり、その後すぐに教員採用試験があります。このしんどく長い道のりを、彼らとともに突き進んでいこうと思います。そして、14歳の私に、教師になっている22歳の私を見せてあげたいです。

山田 菜未季 さん 外国語学部 英米語学科 4年生

教員採用試験に向けて

4月最初の夜スぺで角野先生からそれぞれの紙飛行機、単にとんだ距離を競うのではなく、どう飛んだか、どこを飛んだのかが大切だというお話をいただきました。私自身もまずは教採突破に向けて、トップスピードに乗り、エンジン全開です。そこでもう1点、なぜ飛んでいられるのかを考えてみました。いつも周りに居てくれる仲間の存在、手助けをしてくださる先生方の存在の大きさをひしひしと感じます。合格部屋で勉強していて、集中力が切れた時、しんどいな、眠たいなと思った時、ふと顔をあげると同じ目標に向かって頑張る仲間の姿が目に入ります。ゼミのメンバーとの何気ない会話からも本当にたくさんの元気をもらえ

たり、時には自分だけでは思いもしなかった新しい発見や学びがあります。これからもうまくいかないこと、伸び悩み心配になること、不安がたくさん出てくると思いますが、全員でチームとなり、情報共有をしながら、励ましあいながら目標に向かって飛びたいです。

私は教員になることを志し、教職課程を履修し、大学でたくさん仲間と共に学び、ボランティア等で学校現場や教育機関に出向き、たくさんの生徒や先生方と関わってすごしてきました。初めは「教員になること」は単に自分の中の一つの目標でしたが、今では関わってくださったすべての生徒たちや先生方、仲間のためにも頑張りたい。必ず突破して教員になり、恩返しをしたいと強く思うようになりました。もちろん簡単なことではありませんし、課題だらけの毎日ですが、踏ん張ってきちんと毎日反省をしながら、ありのままの自分で勝負できるよう駆け抜けます。

教育実践演習から・・・。

短期大学部 教授 明石一郎

【教師としての基本的なこと】

毎日の学校生活において次のことを大切にしたい。

- ・「わかる授業」づくりができているか
- ・子どもの気持ちをキャッチできているか
- ・学校・学年チームの一員として動いているか
- ・美しい学習環境づくりができているか
- ・保護者と意思疎通できているか

である。

「授業力」「子ども理解力」「保護者等対応力」が教師に求められる。

【学級づくりの定石】

教師力の中でも「子ども理解力」を高めるにはどうすればいいか。これは特に、教科指導と違って教科書がないのでやっかいである。

それにはまず、

- ・遊び時間に子どもの本音が見える。子どもとよく遊んでいるか。
- ・課題のある子どもを中心にクラスが動く。その子どもの気持ちをつかんでいるか。
- ・子ども間のトラブルは、初期対応が命。放っておいても解決しない。ピンチはチャンス。もめごとをきっかけに子ども同士をつないでいるか。
- ・トラブルには必ず背景や原因がある。問題は「いきなり」起きない。背景を探っているか。
- ・はじめに当事者同士の「言い分」をまずは冷静にじっくり聞き事実確認をしているか。
- ・「どうしたん?」「そうやったんか」「そやけどな」が大切。子どもに寄り添い、共感する指導から「厳しい指摘や指導」が沁み込む。頭ごなしに叱るだけでは「反発」しか生まれない。

